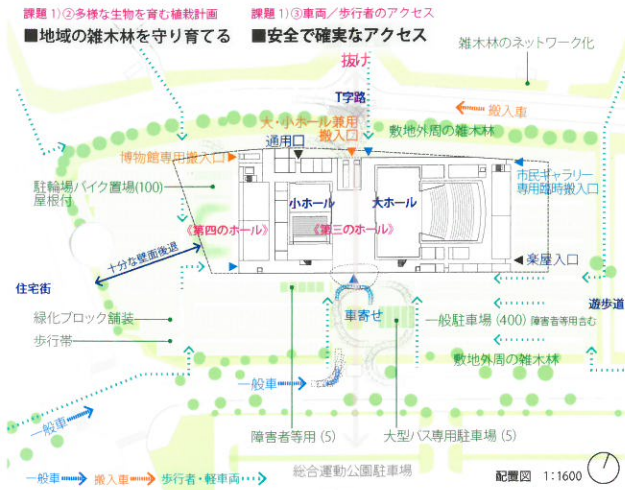


断面図 1:300



配置図 1:1600



広域図 1:8000



課題1) ①広域を見開いた土地利用

■周辺との関係を紡ぐ配置計画

- 駐車場は運動公園側に、建物は敷地北側に、圧迫感低減のためのフレイターは建物中央に配置する。
- T字路突き当りに抜けをもうける。
- 長屋門に似た、力強い構成の建築。

課題1) ②多様な生物を育む緑地計画

■地域の雑木林を守り育てる

- 敷地外周部に雑木林をつくる。
- 仙台平野のイグネを参照し、豊かな生物多様性を持つ体験林とする。
- 街区を越えて雑木林をネットワーク化し、近隣の山裾につなげる。

課題1) ③車両・歩行者のアクセス

■安全で確実なアクセス

- 運動公園側に一般車出入口、通過交通の少ない北側に搬入車出入口。施設の使用も可能な目的別の搬入口。
- 駐車場は緑化ブロック舗装。減速帯や歩行帯を設け歩行者や軽車両のアクセスを安全に。

課題2) ①複合化によるシナジー創出

■空間の連関、機能の多重化を図る

- 鑑賞の場は発表の場に、そして創作や交歓の場になる。それらを創作ギャラリーをもうける。
- 片持ちスラブは搬入口の底。その下は《第四のホール》。災害時には支援活動広場になる。

課題2) ②多様な出会いを生む動線

■建物全体がマナビの場となる

- 小ホールは大ホールのリハーサル室に、研修室は小ホールのリハーサル室に、そして《第四のホール》のためのステージになる。
- 誰かがつながり connect、活動し be active、何かに気づき take notice、学び keep learning、何かを与える give、場となることをめざす。
- 誰も自由に思い思いの時間を過ごせる場をつくる。
- ギャラリーに沿って展示・発表・創作・研究・鑑賞の諸機能を配置。

課題2) ③自律的なマネジメントの誘発

■人と人の関係性を構築するしくみ

- ギャラリーの壁と床を一定範囲で利用者に貸与し自由に使ってもらうことで、コミュニティの核となる“カードプレイス”をめざす。
- 利用者が自ら運営に参加するしくみづくり。

課題3) ①優れた音響特性の大ホール

■三層構成の無垢木材のホール

- 日本最高レベルの音響コンサルタントと協同し、県産杉材を活かした印象的な木のホールを実現。
- 集客規模に応じて多様な使い分けが可能。一階 730 席、二階 295 席、三階 277 席、計 1,302 席。

課題3) ②自然エネルギーの活用

■12の環境負荷低減策

- ①雨水利用
- ②節水型器具
- ③太陽光発電
- ④太陽熱温水給湯
- ⑤高効率照明器具
- ⑥ソーラーチムニーによる自然換気
- ⑦高断熱ファサードによる日射遮蔽
- ⑧ホール照明発生熱利用再熱空調制御
- ⑨水平ループ式中熱ヒートポンプ(空調・融雪)
- ⑩座席空調による居住域冷暖房
- ⑪県産杉材利用
- ⑫自然採光制御

課題3) ③市民の宝を守る収蔵庫

- 収蔵庫と展示室は、水害を避けて二階に配置。
- 収蔵庫に前室を設置。床壁天井に空気層による二重化を図り、空調停止時の急激な変化を避ける。
- 収蔵品に応じ、最良の環境をローコストで実現する最適素材、空調方式、消火設備等を検討する。

課題3) ④市民の自律的活動を喚起する創作空間

■インスピレーションに溢れる館内

- 博物館を含めて館内はインスピレーションの源となる展示物や空間に満ちている。それらは時間の流れのなかで人々が思考し、挑戦した数智の結晶である。
- 知的な刺激を受けた人は自らも何かを創り出し表現してみたいと思うだろう。受けた刺激により次の行動が促され、自然な循環が生じる場をめざす。

課題3) ⑤貴重な収蔵品を適切に守る収蔵空間

■市民の宝を守る収蔵庫

- 収蔵庫と展示室は、水害を避けて二階に配置。
- 収蔵庫に前室を設置。床壁天井に空気層による二重化を図り、空調停止時の急激な変化を避ける。
- 収蔵品に応じ、最良の環境をローコストで実現する最適素材、空調方式、消火設備等を検討する。

課題3) ⑥市民の自律的活動を喚起する創作空間

■インスピレーションに溢れる館内

- 博物館を含めて館内はインスピレーションの源となる展示物や空間に満ちている。それらは時間の流れのなかで人々が思考し、挑戦した数智の結晶である。
- 知的な刺激を受けた人は自らも何かを創り出し表現してみたいと思うだろう。受けた刺激により次の行動が促され、自然な循環が生じる場をめざす。

課題3) ⑦安全で経済的な基礎と架構の考え方

■建物の接地面積を小さくし、杭本数を減らす

- N値50以上の確実な支持層が敷地内深部に傾斜し、軟弱地盤が10m～35m以深まで続く地盤である。
- 支持層に杭先端が確実に到達する場所打ち杭が妥当ではあるが、粘土層が深く積層していることに着目し、経済性にも配慮し、摩擦杭の採用を検討する。
- 上部構造の軽量化を図るとともに、建物の接地面積を絞り、杭本数を減らすことで杭工費を抑える。
- 遮音性が必要な大ホールをRC造、その他をS造とする。床面に水平トラスH400×400を配し、片持ちスラブや吹抜けに合理的に対応。梁せし1000mmの大梁を最大とし、一般柱は400φ、片持ちスラブ根元の柱は700φシームレス鋼管とする。

課題3) ⑧自然エネルギーの活用

■地域のポテンシャルを活かし、地域環境に還す

- 建築自体が水や光、熱や風を集め、内部に循環させ活用し、いづれそれらの恩恵を地域環境に還す。
- 計画地が有する豊富な日照・雨水・地下水、卓越風を最大限に活用する。
- コンピュータシミュレーションによる建築空間やデザインモチーフとインテグレートされた環境制御デザイン。
- 空間利用状況に基づく環境制御と、最先端・高効率な設備システムにより、CO2排出量を大幅に低減。一次エネルギー消費量▲35%をめざす。

課題3) ⑨自然エネルギーの活用

■大・小ホールに加え《第三のホール》《第四のホール》

- 大・小ホールの搬入搬出は《第三のホール》の一角で行なう。搬入作業の見学もマナビのうち。
- 同一平面上に配置され、利便性の高い舞台諸室。

課題3) ⑩自然エネルギーの活用

■12の環境負荷低減策

- ①雨水利用
- ②節水型器具
- ③太陽光発電
- ④太陽熱温水給湯
- ⑤高効率照明器具
- ⑥ソーラーチムニーによる自然換気
- ⑦高断熱ファサードによる日射遮蔽
- ⑧ホール照明発生熱利用再熱空調制御
- ⑨水平ループ式中熱ヒートポンプ(空調・融雪)
- ⑩座席空調による居住域冷暖房
- ⑪県産杉材利用
- ⑫自然採光制御

課題3) ⑪貴重な収蔵品を適切に守る収蔵空間

■市民の宝を守る収蔵庫

- 収蔵庫と展示室は、水害を避けて二階に配置。
- 収蔵庫に前室を設置。床壁天井に空気層による二重化を図り、空調停止時の急激な変化を避ける。
- 収蔵品に応じ、最良の環境をローコストで実現する最適素材、空調方式、消火設備等を検討する。

課題3) ⑫市民の自律的活動を喚起する創作空間

■インスピレーションに溢れる館内

- 博物館を含めて館内はインスピレーションの源となる展示物や空間に満ちている。それらは時間の流れのなかで人々が思考し、挑戦した数智の結晶である。
- 知的な刺激を受けた人は自らも何かを創り出し表現してみたいと思うだろう。受けた刺激により次の行動が促され、自然な循環が生じる場をめざす。

課題3) ⑬安全で経済的な基礎と架構の考え方

■建物の接地面積を小さくし、杭本数を減らす

- N値50以上の確実な支持層が敷地内深部に傾斜し、軟弱地盤が10m～35m以深まで続く地盤である。
- 支持層に杭先端が確実に到達する場所打ち杭が妥当ではあるが、粘土層が深く積層していることに着目し、経済性にも配慮し、摩擦杭の採用を検討する。
- 上部構造の軽量化を図るとともに、建物の接地面積を絞り、杭本数を減らすことで杭工費を抑える。
- 遮音性が必要な大ホールをRC造、その他をS造とする。床面に水平トラスH400×400を配し、片持ちスラブや吹抜けに合理的に対応。梁せし1000mmの大梁を最大とし、一般柱は400φ、片持ちスラブ根元の柱は700φシームレス鋼管とする。

課題3) ⑭自然エネルギーの活用

■地域のポテンシャルを活かし、地域環境に還す

- 建築自体が水や光、熱や風を集め、内部に循環させ活用し、いづれそれらの恩恵を地域環境に還す。
- 計画地が有する豊富な日照・雨水・地下水、卓越風を最大限に活用する。
- コンピュータシミュレーションによる建築空間やデザインモチーフとインテグレートされた環境制御デザイン。
- 空間利用状況に基づく環境制御と、最先端・高効率な設備システムにより、CO2排出量を大幅に低減。一次エネルギー消費量▲35%をめざす。

課題3) ⑮自然エネルギーの活用

■大・小ホールに加え《第三のホール》《第四のホール》

- 大・小ホールの搬入搬出は《第三のホール》の一角で行なう。搬入作業の見学もマナビのうち。
- 同一平面上に配置され、利便性の高い舞台諸室。

課題3) ⑯自然エネルギーの活用

■12の環境負荷低減策

- ①雨水利用
- ②節水型器具
- ③太陽光発電
- ④太陽熱温水給湯
- ⑤高効率照明器具
- ⑥ソーラーチムニーによる自然換気
- ⑦高断熱ファサードによる日射遮蔽
- ⑧ホール照明発生熱利用再熱空調制御
- ⑨水平ループ式中熱ヒートポンプ(空調・融雪)
- ⑩座席空調による居住域冷暖房
- ⑪県産杉材利用
- ⑫自然採光制御

課題3) ⑰貴重な収蔵品を適切に守る収蔵空間

■市民の宝を守る収蔵庫

- 収蔵庫と展示室は、水害を避けて二階に配置。
- 収蔵庫に前室を設置。床壁天井に空気層による二重化を図り、空調停止時の急激な変化を避ける。
- 収蔵品に応じ、最良の環境をローコストで実現する最適素材、空調方式、消火設備等を検討する。

課題3) ⑱市民の自律的活動を喚起する創作空間

■インスピレーションに溢れる館内

- 博物館を含めて館内はインスピレーションの源となる展示物や空間に満ちている。それらは時間の流れのなかで人々が思考し、挑戦した数智の結晶である。
- 知的な刺激を受けた人は自らも何かを創り出し表現してみたいと思うだろう。受けた刺激により次の行動が促され、自然な循環が生じる場をめざす。

課題3) ⑲安全で経済的な基礎と架構の考え方

■建物の接地面積を小さくし、杭本数を減らす

- N値50以上の確実な支持層が敷地内深部に傾斜し、軟弱地盤が10m～35m以深まで続く地盤である。
- 支持層に杭先端が確実に到達する場所打ち杭が妥当ではあるが、粘土層が深く積層していることに着目し、経済性にも配慮し、摩擦杭の採用を検討する。
- 上部構造の軽量化を図るとともに、建物の接地面積を絞り、杭本数を減らすことで杭工費を抑える。
- 遮音性が必要な大ホールをRC造、その他をS造とする。床面に水平トラスH400×400を配し、片持ちスラブや吹抜けに合理的に対応。梁せし1000mmの大梁を最大とし、一般柱は400φ、片持ちスラブ根元の柱は700φシームレス鋼管とする。

課題3) ⑳自然エネルギーの活用

■地域のポテンシャルを活かし、地域環境に還す

- 建築自体が水や光、熱や風を集め、内部に循環させ活用し、いづれそれらの恩恵を地域環境に還す。
- 計画地が有する豊富な日照・雨水・地下水、卓越風を最大限に活用する。
- コンピュータシミュレーションによる建築空間やデザインモチーフとインテグレートされた環境制御デザイン。
- 空間利用状況に基づく環境制御と、最先端・高効率な設備システムにより、CO2排出量を大幅に低減。一次エネルギー消費量▲35%をめざす。

課題3) ㉑自然エネルギーの活用

■大・小ホールに加え《第三のホール》《第四のホール》

- 大・小ホールの搬入搬出は《第三のホール》の一角で行なう。搬入作業の見学もマナビのうち。
- 同一平面上に配置され、利便性の高い舞台諸室。

課題3) ㉒自然エネルギーの活用

■12の環境負荷低減策

- ①雨水利用
- ②節水型器具
- ③太陽光発電
- ④太陽熱温水給湯
- ⑤高効率照明器具
- ⑥ソーラーチムニーによる自然換気
- ⑦高断熱ファサードによる日射遮蔽
- ⑧ホール照明発生熱利用再熱空調制御
- ⑨水平ループ式中熱ヒートポンプ(空調・融雪)
- ⑩座席空調による居住域冷暖房
- ⑪県産杉材利用
- ⑫自然採光制御

課題3) ㉓貴重な収蔵品を適切に守る収蔵空間

■市民の宝を守る収蔵庫

- 収蔵庫と展示室は、水害を避けて二階に配置。
- 収蔵庫に前室を設置。床壁天井に空気層による二重化を図り、空調停止時の急激な変化を避ける。
- 収蔵品に応じ、最良の環境をローコストで実現する最適素材、空調方式、消火設備等を検討する。

課題3) ㉔市民の自律的活動を喚起する創作空間

■インスピレーションに溢れる館内

- 博物館を含めて館内はインスピレーションの源となる展示物や空間に満ちている。それらは時間の流れのなかで人々が思考し、挑戦した数智の結晶である。
- 知的な刺激を受けた人は自らも何かを創り出し表現してみたいと思うだろう。受けた刺激により次の行動が促され、自然な循環が生じる場をめざす。

課題3) ㉕安全で経済的な基礎と架構の考え方

■建物の接地面積を小さくし、杭本数を減らす

- N値50以上の確実な支持層が敷地内深部に傾斜し、軟弱地盤が10m～35m以深まで続く地盤である。
- 支持層に杭先端が確実に到達する場所打ち杭が妥当ではあるが、粘土層が深く積層していることに着目し、経済性にも配慮し、摩擦杭の採用を検討する。
- 上部構造の軽量化を図るとともに、建物の接地面積を絞り、杭本数を減らすことで杭工費を抑える。
- 遮音性が必要な大ホールをRC造、その他をS造とする。床面に水平トラスH400×400を配し、片持ちスラブや吹抜けに合理的に対応。梁せし1000mmの大梁を最大とし、一般柱は400φ、片持ちスラブ根元の柱は700φシームレス鋼管とする。

課題3) ㉖自然エネルギーの活用

■地域のポテンシャルを活かし、地域環境に還す

- 建築自体が水や光、熱や風を集め、内部に循環させ活用し、いづれそれらの恩恵を地域環境に還す。
- 計画地が有する豊富な日照・雨水・地下水、卓越風を最大限に活用する。
- コンピュータシミュレーションによる建築空間やデザインモチーフとインテグレートされた環境制御デザイン。
- 空間利用状況に基づく環境制御と、最先端・高効率な設備システムにより、CO2排出量を大幅に低減。一次エネルギー消費量▲35%をめざす。

課題3) ㉗自然エネルギーの活用

■大・小ホールに加え《第三のホール》《第四のホール》

- 大・小ホールの搬入搬出は《第三のホール》の一角で行なう。搬入作業の見学もマナビのうち。
- 同一平面上に配置され、利便性の高い舞台諸室。

課題3) ㉘自然エネルギーの活用

■12の環境負荷低減策

- ①雨水利用
- ②節水型器具
- ③太陽光発電
- ④太陽熱温水給湯
- ⑤高効率照明器具
- ⑥ソーラーチムニーによる自然換気
- ⑦高断熱ファサードによる日射遮蔽
- ⑧ホール照明発生熱利用再熱空調制御
- ⑨水平ループ式中熱ヒートポンプ(空調・融雪)
- ⑩座席空調による居住域冷暖房
- ⑪県産杉材利用
- ⑫自然採光制御

課題3) ㉙貴重な収蔵品を適切に守る収蔵空間

■市民の宝を守る収蔵庫

- 収蔵庫と展示室は、水害を避けて二階に配置。
- 収蔵庫に前室を設置。床壁天井に空気層による二重化を図り、空調停止時の急激な変化を避ける。
- 収蔵品に応じ、最良の環境をローコストで実現する最適素材、空調方式、消火設備等を検討する。

課題3) ㉚市民の自律的活動を喚起する創作空間

■インスピレーションに溢れる館内

- 博物館を含めて館内はインスピレーションの源となる展示物や空間に満ちている。それらは時間の流れのなかで人々が思考し、挑戦した数智の結晶である。
- 知的な刺激を受けた人は自らも何かを創り出し表現してみたいと思うだろう。受けた刺激により次の行動が促され、自然な循環が生じる場をめざす。

課題3) ㉛安全で経済的な基礎と架構の考え方

■建物の接地面積を小さくし、杭本数を減らす

- N値50以上の確実な支持層が敷地内深部に傾斜し、軟弱地盤が10m～35m以深まで続く地盤である。
- 支持層に杭先端が確実に到達する場所打ち杭が妥当ではあるが、粘土層が深く積層していることに着目し、経済性にも配慮し、摩擦杭の採用を検討する。
- 上部構造の軽量化を図るとともに、建物の接地面積を絞り、杭本数を減らすことで杭工費を抑える。
- 遮音性が必要な大ホールをRC造、その他をS造とする。床面に水平トラスH400×400を配し、片持ちスラブや吹抜けに合理的に対応。梁せし1000mmの大梁を最大とし、一般柱は400φ、片持ちスラブ根元の柱は700φシームレス鋼管とする。

課題3) ㉜自然エネルギーの活用

■地域のポテンシャルを活かし、地域環境に還す

- 建築自体が水や光、熱や風を集め、内部に循環させ活用し、いづれそれらの恩恵を地域環境に還す。
- 計画地が有する豊富な日照・雨水・地下水、卓越風を最大限に活用する。
- コンピュータシミュレーションによる建築空間やデザインモチーフとインテグレートされた環境制御デザイン。
- 空間利用状況に基づく環境制御と、最先端・高効率な設備システムにより、CO2排出量を大幅に低減。一次エネルギー消費量▲35%をめざす。

課題3) ㉝自然エネルギーの活用

■大・小ホールに加え《第三のホール》《第四のホール》

- 大・小ホールの搬入搬出は《第三のホール》の一角で行なう。搬入作業の見学もマナビのうち。
- 同一平面上に配置され、利便性の高い舞台諸室。

課題3) ㉞自然エネルギーの活用

■12の環境負荷低減策

- ①雨水利用
- ②節水型器具
- ③太陽光発電
- ④太陽熱温水給湯
- ⑤高効率照明器具
- ⑥ソーラーチムニーによる自然換気
- ⑦高断熱ファサードによる日射遮蔽
- ⑧ホール照明発生熱利用再熱空調制御
- ⑨水平ループ式中熱ヒートポンプ(空調・融雪)
- ⑩座席空調による居住域冷暖房
- ⑪県産杉材利用
- ⑫自然採光制御

課題3) ㉟貴重な収蔵品を適切に守る収蔵空間

■市民の宝を守る収蔵庫

- 収蔵庫と展示室は、水害を避けて二階に配置。
- 収蔵庫に前室を設置。床壁天井に空気層による二重化を図り、空調停止時の急激な変化を避ける。
- 収蔵品に応じ、最良の環境をローコストで実現する最適素材、空調方式、消火設備等を検討する。

課題3) ㊱市民の自律的活動を喚起する創作空間

■インスピレーションに溢れる館内

- 博物館を含めて館内はインスピレーションの源となる展示物や空間に満ちている。それらは時間の流れのなかで人々が思考し、挑戦した数智の結晶である。
- 知的な刺激を受けた人は自らも何かを創り出し表現してみたいと思うだろう。受けた刺激により次の行動が促され、自然な循環が生じる場をめざす。

課題3) ㊲安全で経済的な基礎と架構の考え方

■建物の接地面積を小さくし、杭本数を減らす

- N値50以上の確実な支持層が敷地内深部に傾斜し、軟弱地盤が10m～35m以深まで続く地盤である。
- 支持層に杭先端が確実に到達する場所打ち杭が妥当ではあるが、粘土層が深く積層していることに着目し、経済性にも配慮し、摩擦杭の採用を検討する。
- 上部構造の軽量化を図るとともに、建物の接地面積を絞り、杭本数を減らすことで杭工費を抑える。
- 遮音性が必要な大ホールをRC造、その他をS造とする。床面に水平トラスH400×400を配し、片持ちスラブや吹抜けに合理的に対応。梁せし1000mmの大梁を最大とし、一般柱は400φ、片持ちスラブ根元の柱は700φシームレス鋼管とする。

課題3) ㊳自然エネルギーの活用

■地域のポテンシャルを活かし、地域環境に還す

- 建築自体が水や光、熱や風を集め、内部に循環させ活用し、いづれそれらの恩恵を地域環境に還す。
- 計画地が有する豊富な日照・雨水・地下水、卓越風を最大限に活用する。
- コンピュータシミュレーションによる建築空間やデザインモチーフとインテグレートされた環境制御デザイン。
- 空間利用状況に基づく環境制御と、最先端・高効率な設備システムにより、CO2排出量を大幅に低減。一次エネルギー消費量▲35%をめざす。

課題3) ㊴自然エネルギーの活用

■大・小ホールに加え《第三のホール》《第四のホール》

- 大・小ホールの搬入搬出は《第三のホール》の一角で行なう。搬入作業の見学もマナビのうち。
- 同一平面上に配置され、利便性の高い舞台諸室。

課題3) ㊵自然エネルギーの活用

■12の環境負荷低減策